



秋季全国火災予防運動

期間: 11月9日(土)から11月15日(金)

【2024年度全国統一防火標語】



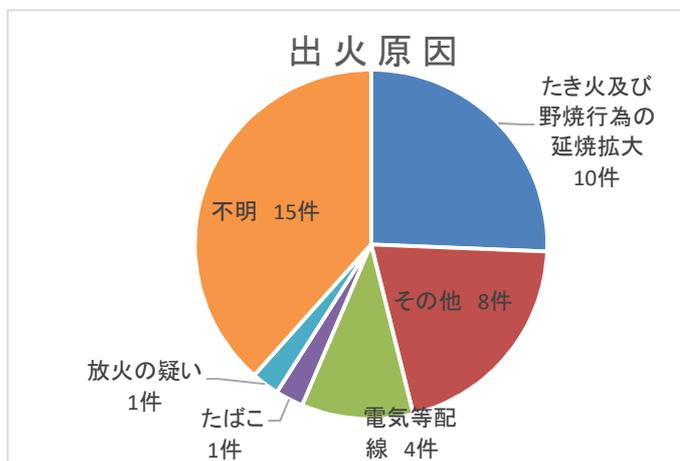
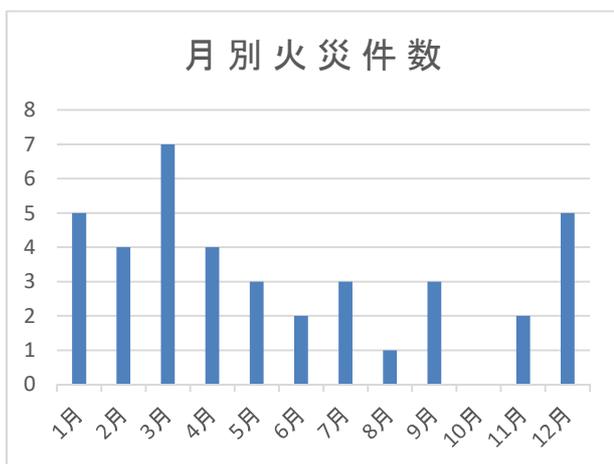
守りたい 未来があるから 火の用心

【令和5年中における火災概要】

令和5年中における小美玉市消防本部管内で火災発生件数は39件(前年比+13件)となっています。また、火災種別にあつては、建物火災17件、林野火災5件、車両火災5件、その他火災12件となっています。

月別火災では、1月から3月及び12月の気温が下がり、乾燥する時期に多く火災が発生しやすくなっています。

出火原因のトップは「たき火及び野焼行為の延焼拡大」が多く、次いで、その他・電気等配線となっています。



住宅用火災警報器の点検・交換をしましょう

すでに取り付けられている住宅用火災警報器が、正常に作動をするか定期的に確認をしましょう。また、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、10年を目安に住宅用火災警報器の交換をお奨めします。

日頃のお手入れ

住宅用火災警報器にホコリが付くと火災を感知しにくくなります。汚れが目立ったら、乾いた布でふき取りましょう。

台所に取り付けた住宅用火災警報器は、油や煙などで汚れが付くことがあります。布に水やせっけん水を浸し、十分絞ってから汚れをふき取りましょう。



本体の交換

何年も前に設置された住宅用火災警報器は、経年により電子部品等が劣化します。

設置年月や製造年を確認し、取扱説明書等を読み設置10年を経過したものは、本体の交換を検討しましょう。



ピッ...ピッ...と音が鳴ったり、ランプが点滅するのは故障や電池切れを知らせるサインです。



裏面もご覧ください



リチウムイオン蓄電池の火災発生



近年、電気器具類を原因とする火災が増加傾向にあり、住宅火災の原因の第1位となっています。

過去10年間の電気器具類の火災件数の推移を見ると、リチウム電池と充電式電池の火災件数の増加が顕著となっています。

リチウムイオン電池は、強い衝撃が加わると発煙・発火のおそれがあり、出火原因の多くは機器の不具合や不適切な使用によるものがあります。

リチウムイオン蓄電池による電気火災を防ぐための主な対策

- ・破損・膨張などの異常のある場合は使用しない。
- ・リチウムイオン蓄電池は熱くなる場所に放置しない。
- ・むやみに家電製品を分解・修理・改造しない
- ・水のかかる場所では使用しない
- ・定期的に異常がないか確認し、機器に深いキズや変形・焦げた跡等の異常がある場合は使用しない。
- ・対応年数を超過した製品は使用しない。
- ・リコール情報を確認する。

製品の取扱い説明書の指示に従い、正しく使用・管理することが重要です！！

リチウムイオン電池が使用されている製品の具体例



【ノートパソコン】



【電話機】
(固定・携帯・スマホ)



【モバイルバッテリー】



【加熱式たばこ】

リチウムイオン電池・電池使用製品の判別方法は、「充電できる製品」「電源につながなくても動く・光るなどする製品」には、リチウムイオン電池が使用されている可能性があります。



☆ お問い合わせ先 ☆

小川消防署

☎0299-58-4611

美野里消防署

☎0299-48-2266

玉里消防署

☎0299-58-0555

